

# まんが 作業療法物語

## ～認知症編～

ひとつの作業がその人を変える



Aさんは  
78歳の男性です。

朝ごはんは  
まだかー？

？

さっき  
食べましたよ

最近同じことを  
何度も言ったり  
聞いたりしています。

畑に行くと言ったまま帰り方がわからなくなり、  
家から3キロも離れたところで  
警察に保護されたこともあります。



精神科病院を受診し、  
治療の目的で入院することになったのですが…



入院したことが理解できず、とまどうばかり。

おほ

出口はどこか？

おほ

ここから出してくれ～…

はあ

こんにちは  
Aさん

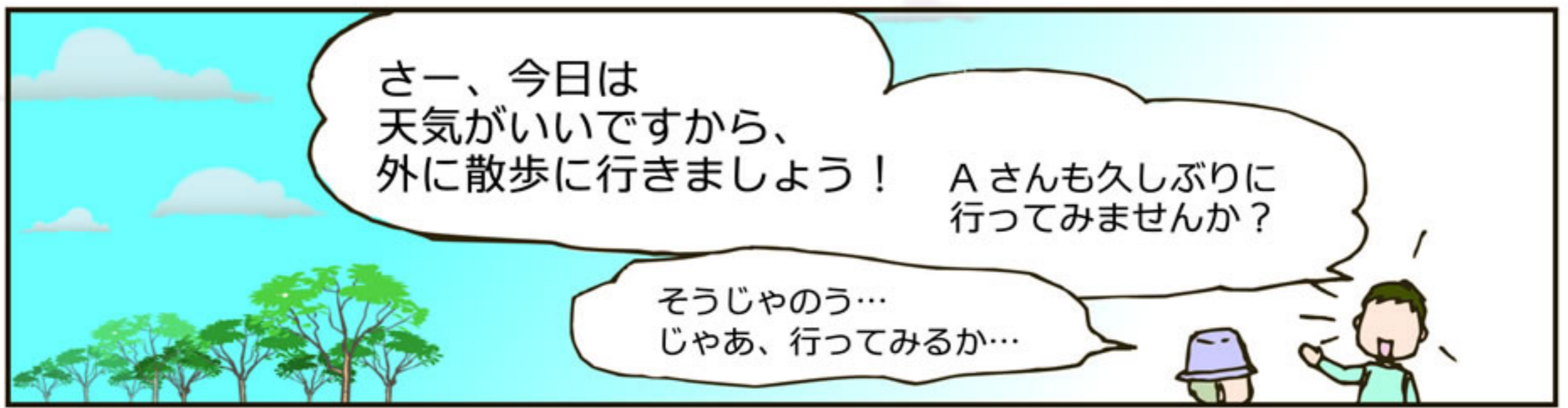
いま創作活動で、来月の  
カレンダーづくりを  
しているのですが、  
参加してみませんか？

作業療法士の O 君

そんな  
幼稚なこと  
誰ができるか！

ふむふむ…

わかりました  
無理には誘いませんよ

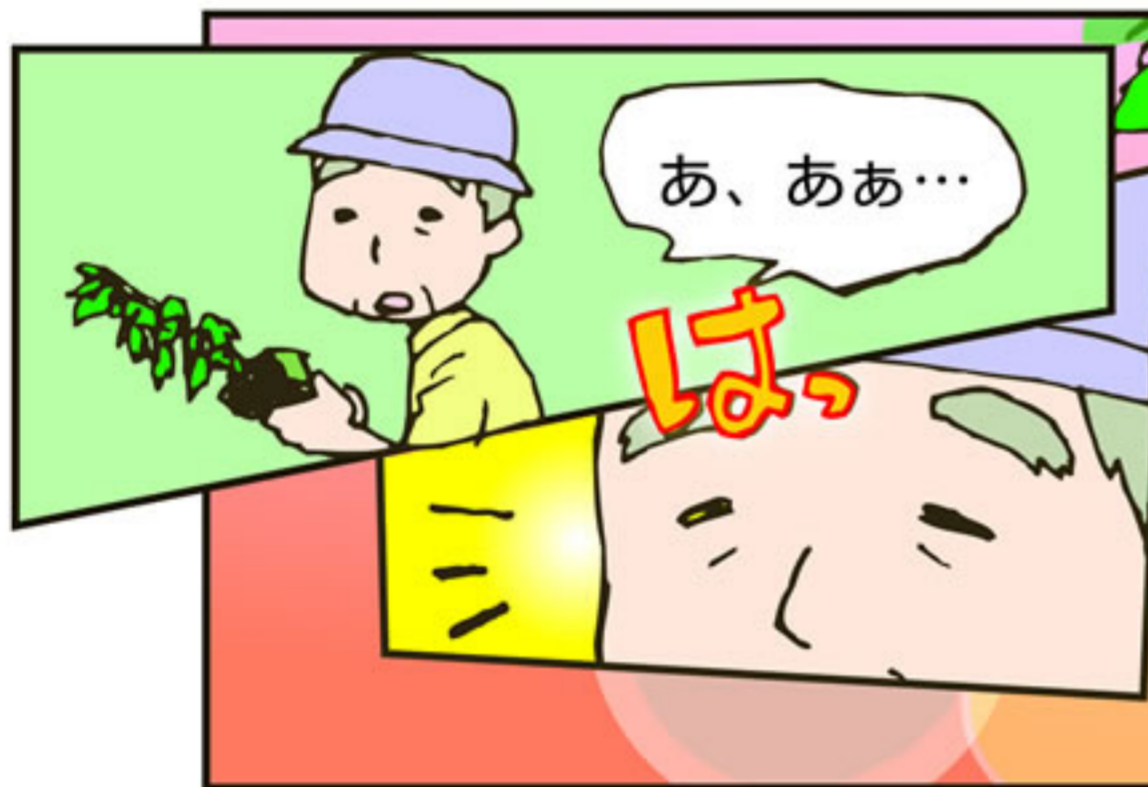


O君はAさんが30年来の野菜農家だったという情報を得て、  
この場所に園芸コーナーを  
作り始めていたのです。



昔、慣れ親しんだ作業が目前にあったとしても  
すぐには行えない場合があることもわかっていました。  
認知症によりまだまだ頭の中は混乱した状態です。  
作業をしたいという気持ちはそう簡単には起こらないでしょう。







その後、Aさんは毎日のように園芸コーナーに足を運ぶようになり、



その人にとって「意味のある作業」を見つけ出し、それを実現していくことが大切なのです。



認知症の方はその一瞬一瞬を不安、迷い、恐れなどの思いで過ごされています。

私たち作業療法士はその方々の思いを十分に察しながら、その人が持っている力を最大限に発揮できるように働きかけています。

認知症になっても、その人らしく、いつも笑顔で楽しく過ごせるように…。

退院おめでとうございます。



次のページでは認知症関連の病院・施設を紹介します。